

“しごと観育成”研究会 2014 第1回プレ研究会報告

■日時：2014年3月1日（土） 13時30分～17時 ■会場：辻調グループ 学生センター

「“しごと観育成”研究会 2014」開催の趣旨

“しごと観育成”研究会は、これまでキャリア教育についての調査・研究、情報発信を行うとともに、有志の方々にお集まりいただき、各学校種におけるキャリア教育のあり方について熱い議論を重ねてまいりました。

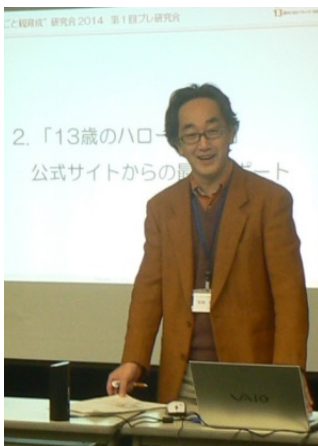
当研究会の開催は諸事情によりしばらくの間休眠状態となっておりましたが、高等教育機関の「役割」や「教育成果」について、キャリア形成やキャリア教育という観点から研究を行う意義は現在もなお大きく、2015年度の再開をめざして、2014年3月にプレ研究会を実施いたしました。

今回、高等学校・専門学校・大手予備校の教職員、現役大学生、教育関係のNPO法人の方々など多様な面々にお集まりいただくことができました。

今後の活動は、2014年度につきましては、引き続きプレ研究会としてキャリア教育に関心をお持ちの方々と現状を把握し、問題意識を共有する場を設定していきたいと考えています。

発表Ⅰ 「13歳のハローワーク公式サイト」からの最新レポート

松尾 和祥 氏（「13歳のハローワーク公式サイト」編集長）



松尾氏からは、「13歳のハローワーク公式サイト」の運営状況や、イベント・ワークショップの実施、大学生の活動支援等について発表していただきました。

今年1月は東京都立蒲田高校で、「社会人アドバイザー交流会」と題して社会人15人による授業を実施。また、大阪の大学生らによる高校生向けキャリア情報誌「Life Collection」の発行にも協力。今年4月からは新プロジェクト「Jr.クラブ」も発足し、小・中学生や高校生が主体となり、企業や個人への取材・インタビュー、イベントの企画・開催・参加といった社会文化活動を展開していく予定です。

～特別発表 大学生がつくるフリーマガジン「Life Collection」のご紹介～ 梶谷 良徳 氏（大阪大学文学部1回生）



「Life Collection」発行実績

No.	発行年月	テーマ
創刊号	2012.6	チャレンジ
第2号	2012.10	高校生の気になる職業大解剖
第3号	2013.1	自分の道を歩む大学生
第4号	2013.6	研究の世界
第5号	2013.10	日本を飛び出した先輩たち
第6号	2014.2	起業家ってどうやってなるの？

職業紹介アクセスランキング（2013年）

順位	職業名
1	保育士
2	プロスポーツ選手
3	パティシエ
4	臨床検査技師
5	公務員[一般行政職]
6	看護師
7	医師
8	ファッションデザイナー
9	薬剤師
10	ナニー

「Life Collection」は、「それぞれが望む人生を選択できる環境の創造」をコンセプトに始まった、主に大阪大学出身者による団体。梶谷氏からは、同誌の活動状況の発表がありました。同名のWebサイトでは高校生・大学生に向けて若者たちのインタビュー記事を公開し、フリーマガジンでは高校生向けに**大学生や社会人の様々な生き方を紹介**しているそうです。同誌は、高校生が想像しやすい紙面づくりを心がけ、関西圏の進学校を中心に**約3万部を配布**。印刷・デザイン・編集作業面などで「13歳のハローワーク公式サイト」の協力を得ています。

*次号（第7号）は2014年5月発行予定

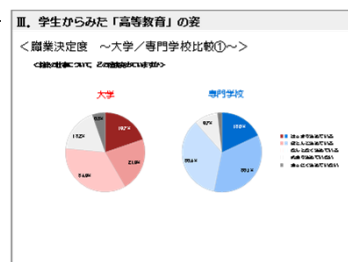
“しごと観育成”研究会 2014 第1回プレ研究会報告

発表II 高等教育の歴史・政策動向等についてのレビュー

古谷 文男 氏（㈱ 応用社会心理学研究所 調査研究ディレクター）



古谷氏からは、わが国の明治期以降の高等教育の変遷や政策動向のレビューがありました。「学校教育法」に照らすと、「学術の中心として、広く知識を授ける」などを目的とする大学と、「職業若しくは實際生活に必要な能力を育成する」などを目的とする専門学校。しかし、学生からみた「高等教育」の姿や評価を「全国専門学校共同入学者調査」や「テレメール全国一斉進学調査」を基に様々な角度から比べたデータでは、「学校教育法」の目的とは異なる意外な結果もありました。例えば、「新入生の職業決定度」もその一つ。対象はあくまで新入生ですが、将来の仕事を「はっきり決めている」という回答の割合は、わずかですが専門学校生より大学生のほうが高くなりました。



当日紹介されたデータの一部

ディスカッション

プレ研究会初回となる今回は、まず参加者それぞれがさまざまな意見を自由に議論しました。

- ◆専門学校は入学時の生徒発表、経年観察による成果発表などの様々な取り組みをなぜやめたのか？
→（専門学校）意識的ではないが、最近では企業とタイアップした産学連携での取り組みが多い。
- ◆大学でのキャリア教育の現状はどうか？
→（大学生）高校時代のほうが行われていたが、それほど役に立ったようには感じない。キャリア教育の授業は、外部から企業の人に来て、その人がしている仕事の話をするだけなど、おざなりな部分もある。
- ◆職業適性検査についてどう感じるか？
→（高校）受検者本人が興味を持っていない職業が出ることも多く、それに合わせて指導することには疑問がある。あまり重視すべきものとは思えない。
→（高校）きっかけ、参考とはしているが、形式的なものと捉えている。
→（専門学校）ある程度の妥当性は担保されるが、使い方は指導する側に責任があるのでは。
- ◆予備校ではキャリア教育を意識しているか？
→（予備校）10年ほど前までは進路を決めて来る子が多かったが、最近では決められない・決めたくない子が多い。大学に学部はたくさんあり、他の学部でも同様な勉強ができるなど、進路選択の幅を広げる指導をしている。
- ◆進路はいつ、どこで決定すればベターか？
→（専門学校）世の中が多様化し、先生も生徒も多種多様な職業を追いかけきれしていない。
→（NPO）自由がいいか強制的がいいかは何とも言えないが、やはり本人が選ぶことが大事では。
→（企業）ゴールの決定は良くない。指導者には意欲のくみ取りが必要だと思われる。



新たに活動を開始した研究会には、
懐かしい方々も

“しごと観育成” 研究会 2014 第1回プレ研究会報告

懇親会

プレ研究会終了後は、会場となった辻調グループの学生が製作したお菓子とともに、懇親会が行われました。ディスカッションタイムの延長戦を繰り広げる方や、旧交を温める方など、参加者同士が思い思いに語らい、大いに盛り上がりました。



■参加者アンケートより

- ・少人数でも専門学校、高校、NPO法人、企業など、様々な立場の方から意見を聞くことができて良かった。
- ・各立場での問題意識の違いが大変興味深く、勉強になった。
- ・ディスカッションの時間が短く、あまり議論ができなかった。

■今後について

本年中にあと1～2回ほど、キャリア教育に関心をお持ちの方々と現状を把握し、問題意識を共有する場としてプレ研究会を実施する予定。

イベント紹介 辻調グループフェスティバル2014

会場となった辻調グループでは、研究会当日に「辻調グループフェスティバル2014」が開催され、活況を呈していました。

